



そよ風



大阪市立大学
医学部附属病院

発行/大阪市立大学医学部附属病院
〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号
TEL 06-6645-2121
http://www.hosp.med.osaka-cu.ac.jp/

2013年4月
第18号



Smile! / Service! / Science! 笑顔の大学病院を目指しています

乳がんに対する外来化学療法

乳がんは、40～60歳代の仕事・家庭内における影響が大きい年代に多く発症します。また、乳がん治療において化学療法（抗がん剤）は大きなウェートを占めております。したがって、普段の生活と抗がん剤治療を両立することは、大変重要であります。2007年4月、がん対策基本法が施行され、地域がん診療連携拠点病院に外来化学療法室（抗がん剤の点滴や注射を専門に行う部屋）の設置が義務付けられました。同月に当院でも外来化学療法センターをオープンし、安全でエビデンスに基づいた化学療法を行っています。治療を受けながら社会生活を行える抗がん剤の外来化学療法は、患者さんにとってはたいへんにメリットが多いです。当院での化学療法センターでは11台のリクライニングシートでテレビや音楽を鑑賞しながら化学療法を受けて頂

くことができます。抗がん剤は副作用が強いものが多いですが、近年嘔気・嘔吐や骨髄抑制（免疫が低下します）などの化学療法に伴う副作用を軽減できる支持療法が進歩したため、通院でも化学療法が安全にできるようになりました。乳がん専門医・がん化学療法認定看護師・薬剤師が連携し、スタッフ全員が患者さんの状態を理解し、きめ細やかな治療を提供しております。



理念

私たちは、医学部建学の精神である「智・仁・勇」に基づき市民の健康に寄与する質の高い医療を提供します
 ころ豊かで信頼される医療人を育成します
 医療の進歩にたゆまぬ努力を続けます

(大学病院のめざすところ) 基本方針

- ・患者本位の安全で質の高い医療を提供します
- ・地域医療の向上に寄与します
- ・健康・予防医学を推進します
- ・最新の高度医療を提供します
- ・人間味豊かな優れた医療人を育成します
- ・新しい診断法・治療法・予防医学の開発を行います
- ・質の高い多彩な研究を推進します

平成24年度 災害時患者受け入れ訓練を行いました



平成25年3月18日午後3時から、平成24年度の院内災害訓練を実施しました。仲谷副院长や、看護部の中谷副部長をはじめ、医師35名、看護師39名、研修医60名、医学部学生27名、事務・コメディカル40名、合計201名が参加して、多数傷病者の受け入れを行うという訓練でした。今回は初めて、医学生や看護学生の方に模擬患者役をお願いし、研修医の先生には、災害についての事前講義、トリアージ訓練、部門立ち上げ訓練を行ったうえで、実際の訓練に医療者として参加してもらいました。また、初めて災害対策本部を実際に動かし、情報の収集や、方針決定の過程を検証しました。3年ぶりの訓練にもかかわらず、皆さんがそれぞれの部署

で一生懸命に働いていただいたおかげで、大きなトラブルもなく、無事訓練を終えることができました。今回の訓練で、アクションカードの見直しや、事前訓練のインストラクターのほか、参加者としても協力していただいた運営委員、救命センター看護師、DMAT隊員の方々には本当に感謝しています。今回行った訓練で、本部の人員の配置や、情報収集方法など、課題も見つかりましたが、これらについてはしっかりと検討し、今後の訓練や、実際の災害対応に役立てていきたいと思っております。



文責:救命救急センター 山本啓雅

医療安全だより

～安全・安心で、みんな笑顔の病院づくり～

第12回

食事への異物混入防止のための体制づくり 栄養部



栄養部では、栄養管理として入院患者様のお食事の提供や、栄養食事指導、NST(栄養サポートチーム)など患者様の療養生活サポートを

中心に運営しております。

中でも入院患者様のお食事については、入院期間中の朝、昼、夕食および間、夜食など生活に密着したサポートであり、その質(QOL)についても多くのご要望をいただいております。安全・安心を念頭に日々改善に努めております。食事は安全確保(食中毒予防)のために、手早く作業を行い温度の変化を最低限にすることも重要ですが、加えて異物の混入防止にも努力しております。

今回は、当部の異物混入防止対策についてその取り組みをご紹介します。

①調理場入室時

- ・帽子は、髪の毛を全て覆うように被り、マスクを着用します。
- ・鏡で確認しながら粘着路ローラーでの髪の毛チェックを行います。
- ・入室者相互でお互いの白衣の髪の毛チェックを行います。



②盛り付け作業開始時

- ・担当者相互で今一度白衣の髪の毛チェックを行います。



③ダブルチェック

- ・調理師(部門監理主任)と担当栄養士がベルトコンベアで盛り付けられてくる食事を1食毎にチェックします。



栄養部ではスタッフ一同、日々の食事の安全確保と質の向上に努力し、患者様の療養のサポートとなるよう努力いたします。

“体にやさしい脊椎手術”

整形外科・脊椎グループでは“体にやさしい脊椎手術(低侵襲脊椎手術)”を行っております。当グループでは従来から脊椎手術に顕微鏡を使用していましたが、日本に脊椎内視鏡が導入されたごく早期から内視鏡を脊椎手術に応用しており、手術の際の皮膚切開を最少化することに成功しています。

腰椎椎間板ヘルニアには、全例に内視鏡手術を行っており、手術痕は16mmと1円玉よりも小さい大きさでヘルニアの摘出が可能です(図⑤)。現在日本整形外科学会が内視鏡下脊椎手術のできる医師を技術認定していますが(日本整形外科学会ホームページでみることができます)、より難易度の高い腰部脊柱管狭窄症に対して施行できるのは日本国内でも数少なく、当科はそれら施設の一つです。

一方、金属を使った固定術が必要な場合には、背中中の筋肉を広く切離する必要がありますが、私たちは、筋肉間を分けて挿入する方法や皮膚切開を金属挿入部のみに限局する方法、金属の挿入方向をかえて皮膚切開を減少させる方法(図⑧)などの次世代型手術を行っております。また、骨粗鬆症があって脊椎骨折を生じつまでも疼痛が続く場合には、小さな皮膚切開から人工骨や骨セメントを骨内に充填する手術方法(椎体形成術)を行っております(図⑩)。

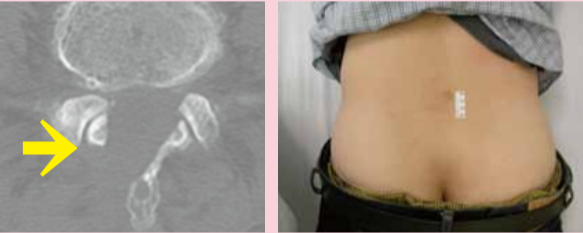
これらの低侵襲脊椎手術では、原則、手術翌日より起立・歩行を行っており、従来法よりもより早期に社会復帰することが可能です。

文責：大阪市立大学整形外科 脊椎グループ
豊田宏光 中村博亮

腰部脊柱管狭窄症に対する内視鏡下手術



①腰部脊柱管狭窄症のMRI画像
神経の通り道(脊柱管)が開かれています
②内視鏡下手術の風景
内視鏡を用いて1.6～1.8cmの皮膚切開で手術を行います
③術後のMRI画像
脊柱管が拡大しています



④術後のCT画像
従来法と同じように十分に拡大することができます
⑤術後の創部
術後の皮膚切開はわずか1.6～1.8cmです

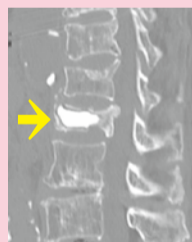
椎体骨折(偽関節)に対する椎体形成術



⑨椎体骨折後偽関節のCT画像
椎体内に空洞化が生じた偽関節は、骨がくっついていないため、強い痛みの原因になります



⑩椎体形成術の手術風景
0.5cmの特殊な針を用いて、椎体の空洞内に人工骨セメントを注入します

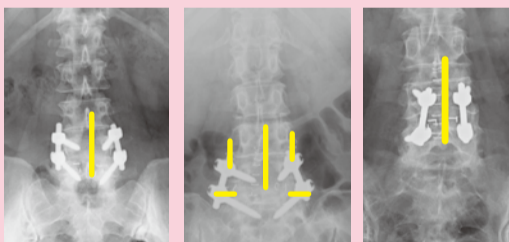


⑪術後のCT画像
椎体の空洞内に人工骨セメントが充填され、椎体が安定化します

低侵襲脊椎固定術



⑥腰椎変性すべり症の術前後のCT画像
脊椎固定術では図のように背骨のずれを矯正することが可能です
⑦従来法の術後のレントゲン写真
従来法では、10～15cmの皮膚切開で行います



⑧新世代型 低侵襲脊椎固定術の術後のレントゲン写真
当院では5～7cmほどの皮膚切開で手術を行います。皮膚切開が短いだけでなく、新世代型手術では腰の筋肉へダメージが少なくなります。

診療科紹介 小児外科

小児外科は、内科に対して外科があるように、小児(内)科に対応することのための一般外科です。こどもはおとなに比べてからだ小さいだけでなく、発育の途中で機能が未熟です。このような子供の特徴を十分に知った上で手術前後の治療をしなければなりません。薬の使い方、点滴のしかたなどあらゆる面でおとなの常識は通用しません。これが小児外科が独立している大きな理由です。よく見る病気はそけいヘルニア(脱腸)、陰嚢水腫、停留精巣、臍ヘルニア(でべそ)、便秘があります。本院は日本小児外科学会の教育関連施設で、「こどもを安心して預けることができる外科医」として学会が認定した小児外科指導医と小児外科専門医が中心になり治療を行なっています。よくある病気から特殊な技術がある手術まで、麻酔医と協力して世界標準レベル以上の安全な治療を行なっています。肝胆膵外科と協力して生体肝移植も行なっています。より負担の少ない手術法として内視鏡下の手術にも力を入れています。

こどもの“脱腸”の新しい手術 ～脱腸が3mmの創(きず)で治せます～

“脱腸”(そけいヘルニア)のあるお子さんは早期に手術をして治してしまうことをお勧めします。お子さんの手術に抵抗のある親御さんもおられると思いますが、こどもの“脱腸”はこども専門の外科医(小児外科医)と麻酔医が協力すれば安全に治すことができます。直径3mmの細い腹腔鏡(カメラ)をおへそから入れて、小さな創で女の子も男の子も治せます。細い器械を使うので創を縫う必要がなくなりました。



手術の傷あと



細径腹腔鏡でのそけいヘルニア手術(SILPEC)

病院ボランティアを大募集しています

病院ボランティア活動は、患者様とご家族の為の向社会的活動で、患者様のお手伝いをする為に自主的主体的に働く活動です。ボランティアは職員と協力し合っ、よりよい病院環境を作るためのパートナーです。

通訳ボランティア

中国語・韓国語・ロシア語などで患者さんへの説明をしていただける方

外来案内ボランティア

【活動日】 月～金(休日・年末年始は除く)
【活動時間】 9:00～15:00(応相談)
【活動内容】 診療窓口、検査、レントゲンなどへの介助・補助が必要な患者さんのご案内いただける方



お問い合わせ先

〒545-8586
大阪市阿倍野区旭町1-5-7
大阪市立大学医学部附属病院ボランティアルーム
TEL/FAX: 06-6645-2694 ※土日祝日を除く
E-mail: volunteer@med.osaka-cu.ac.jp

大阪市立大学医学部附属病院の概要

所在地 〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号 初診受付時間 午前9時～午前10時30分
電話 (06)6645-2121(代表) 休診日 土・日・祝日、12月29日～1月3日

診療科

総合診療センター、循環器内科、呼吸器内科、膠原病内科、生活習慣病・糖尿病センター、腎臓内科、内分泌・骨・リウマチ内科、消化器内科、肝胆膵内科、小児科・新生児科、神経精神科、皮膚科、放射線科、放射線治療科、核医学科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、肝胆膵外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、脳神経外科、整形外科、リハビリテーション科、泌尿器科、女性診療科(産科・生殖内分泌・骨盤底医学)、女性診療科(婦人科腫瘍)、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科・ペインクリニック科、形成外科、血液内科・造血細胞移植科、老年内科、神経内科

※本院は、専門医療を中心に医療を提供していますので、受診するには原則、診療情報提供書(紹介状)が必要です。

